

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かれ合い

No.69

共に生きる

発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

7月10日(日)
参院選投票日

立憲主義（政治は憲法に基づくもの。 憲法違反は国会多数決でもできない。）を取り戻そう

許アベ政

麻生副総理がまたもや

暴言

「いつまで生きている
つもりだよ」

6月17日、小樽市での発言

高齢者に対し、どこまでも尊厳を否定するのですか、副総理。まさに日本の恥。自民党の本質が表われています。



報道規制

日本漫画家協会
日本漫画家会議にしやま すすむ
西山 遼

7月の講演・集会案内

- ◆7月1日(金)戦争法廃止署名行動(JR黒崎駅前)18時～19時
- ◆7月2日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時
(アムネ後)16時15分～関門北九州地区宗教者平和懇談会
- ◆7月8日(金)戦争法廃止署名行動(JR黒崎駅前)18時～19時
- ◆7月10日(日)第24回参議院議員通常選挙投票日
- ◆7月17日(日)原水爆禁止国民平和大行進
JR折尾駅北口14:30→JR黒崎駅前16:00着
- ◆7月23日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC) …14時

私たちを忘れていません。3年前の参議院選挙で安倍首相は「アベノミクス」を強調し、「この道しかない」と訴えていました。ところが選挙後に行つたのは「秘密保護法」を成立させ、翌年7月には集団的自衛権行使容認の閣議決定を強行突破したことです。同年12月の総選挙でも「アベノミクス」を前面に訴えていました。与党が多数を握ると今度は「戦争法」をまたもや強行成立させたのです。憲法改正をどうしてもやりたいと意欲を燃やしていることが見え見えの安倍首相ですが、選挙になると、またしても経済政策を前面に「アベノミクス」をもちだしたのです。その言葉の裏には、平和憲法を壊そうとするたぐらみがはつきりと見えます。立憲主義を無視した安倍政治の道は、他国の戦争に自衛隊を派遣するための道に他なりません。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないよう」と誓った憲法前文を反古にする企みは絶対阻止させなければならないと思います。いま、良心的な市民の声に基づいて野党共闘が全国32の選挙区で成立し、安倍政権の暴走をストップさせようと選挙戦を戦っています。共に生きる読者の皆さんに呼びかけます。武力によらずい平和な社会と人権尊重の社会をつくるうとする候補者に一票を投じましょう。

アベノミクスを叫ぶその裏に
平和憲法破壊が見えている

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第18条 考えるのは自由

人には、自分で自由に考える権利があります。この権利には、考えを変える自由や、ひとりで、またほかの人といっしょに考えをひろめる自由もふくまれます。

7月10日(日):イチイチ祈りの会

カトリック
場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後～
どなたでもお出でください。

沖縄・辺野古レポート(その6)

(元中学校教員 池村好順)

「日米地位協定」こそが犯罪の元凶

この言葉を何度も繰り返すのでしょうか。「綱紀肃正」と「再発防止」！ 日米両政府は、二度と悲惨な事件を繰り返さない覚悟をこの言葉を並べることによって本気で示しきっているとでもいうのでしょうか。沖縄県民も、そして本土の多くの人々もすでに見抜いています。「米軍基地がある故に起こる犯罪」であり、「日米地位協定に守られているという犯罪意識」が背景にあること、このことこそが犯罪の元凶であることを。

「日米地位協定」は1960年に締結されました。しかし、その後一言一句改定されていません。ほんの一部の「運用の改善」がなされただけです。「地位協定」の17条で、「公務執行中の作為は又は不作為から生ずる場合は、合衆国軍隊の構成員又は軍属に対して第1次的裁判権を有する」と規定しています。米兵が事件を起こしたとき「公務中」であれば、この17条によって合衆国が第一次的裁判権を持つということです。

1995年、「沖縄米兵少女暴行事件」が起こったときもそうでした。沖縄県警は、数々の証拠から海兵隊員の事件への関与は明らかであるとして、同年9月7日に逮捕状の発付を請求しています。しかし、日米地位協定で、被疑者がアメリカ兵の場合その身柄がアメリカ側の手中にあるとき、起訴されるまでにはアメリカが被疑者の拘禁を引き続き行うとされているため、たとえ逮捕状が発付されても、日本側警

察当局は起訴前には逮捕状を執行できません。被疑者の身柄を拘束し取り調べるという実効的な捜査手段を採れなかったのです。沖縄県民の怒りが爆発した島ぐるみのたたかいのなかで、ようやく日米両政府の間で、「日米地位協定第17条5(c)及び、刑事裁判手続きに係わる日米合同委員会」が開かれました。

「1. 合衆国は、殺人又は強姦という凶暴な犯罪の特定の場合に日本国が行うことがある被疑者の起訴前の拘禁の移転についてのいかなる要請に対しても好意的な考慮を払う。合衆国は、日本国が考慮されるべきと信ずるその他の場合について同国が合同委員会において提示することがある特別な見解を充分に考慮する」ことを確認しました。あくまで「改正」ではなく、「運用の改善」。「好意的な考慮を払う」、「充分に考慮する」ということだけです。日本国内でありながら日本の法令は適用されない。まさに治外法権・特権が保証されています。当時のアメリカ太平洋軍司令官、リチャード・マッキー海軍大将は事件後、「レンタカーを借りる金で女が買えた」と発言し、更迭されました。この事件を受け、金武町では街灯1000本、監視カメラが国の補助金で設置されています。しかし、これらのことが抜本的な「再発防止」対策になったとは、とてもいえません。そして残念なことに、この事件から20年が経過し、再び残酷な米軍軍属による殺人事件が発生してしまいました。

日本政府は6月3日、「沖縄県における犯罪防止に関する対策」を発表しました。①防犯灯や防犯カメラの設置などの環境整備、②防犯パトロール体制の強化、③学校における防犯教育や地域ぐるみの見守り活動の支援、④不審者情報の共有体制の構築などが中心です。パトロール体制の強化では、県警の体制強化のほか沖縄総合事務局で非常勤職員を雇用し、車両100台規模の緊急パトロール隊を組むとしています。場所は「繁華街」。こうしたこと必要ですが、根本的な対策が抜け落ちています。「日本地位協定の改定や基地削減」に、正面から取り組まなければ解決の一歩を踏み出すことはできません。安倍首相はこのことに背を向けていますし、非常に消極的な姿勢です。県民・国民の命を二度と危険にさらさない、その決意の一片さえ伝わってきません。一体どこの国の総理大臣なのでしょうか。

翁長知事は、辺野古新基地建設に関わる裁判でこう語りました。(次回へ)

号外 沖縄タイムス
6月19日 木曜日

海兵隊撤退要求 県民大会被害



6月19日、沖縄タイムスが号外
「沖縄タイムスが号外
県民大会に6万5000人が集結！」
(沖縄タイムズネット配信より)

(その3)

在日2世の金 貞子さんのお話から



金さんは、同志社大学院教授の浜 矢子さんの話を紹介しました。



安倍政治の大きな間違いは、公助の意味を完全に誤っていることです。『公助とは、自助能力のない人たちを助けること』。それは、自分の力を發揮したくても発揮できない人たちを助けることが公助の働きであって、これが弱者救済の意味です。ところが今の政府は、自助能力にたけた人をもっと助けようとしている。自分でちゃんとやっていけるのに、もっと力を与えようとしています。それとは逆に、能力の無い人に対しては差別的な社会形成をしています。自助能力の無い人の中には、チャンスが与えられれば能力が出せる人もいるわけです。このように、弱者を助ける社会をつくっていくことが必要です。



このように、弱者をつくり出している社会そのものがヘイトスピーチを作出していると浜先生は言われました。

「自分の能力が無いので公助にたかっている」「国にたかっている」と思い込み、これが怒りとなり他者を差別してしまう意識が国民の中に存在している。そして人々の中の欲求不満が生み出されて、その不満を

弱者にぶつけてしまう。人々の中にある寛大さ、寛容さを奪っていく現代社会の実状。寛容とヘイトスピーチほど隔たりの大きいものはない。全く正反対だということですね。

浜先生のもう一つ話されたことは「教育」と「訓練」です。安倍政権の政策では、大学における文科系学部を廃止しようとしていること。その方向にあるそうです。文系に時間をかけるよりも、腕をみがき、職業訓練にもっと力をいれる。即戦力となる教育をと。結果、スキルはついているが考える力が無い人間、イマジネーションの無い人間がどんどん造られています。イマジネーションの欠落は、自分と違う感性を持つ人を理解できず、最大の悲劇は“人の痛みがわからない”まさしくこれがヘイトスピーチの温床になるということなんですね。

それから、浜さんは「出会い」という話もされました。包摂性、抱きしめる力。多様な…… (続く)

反ヘイトスピーチ法ができました

「不当な差別的言動は許されないことを宣言」しています。不十分なですが、ようやく政府もヘイトスピーチ問題に腰を上げたことは評価できるでしょう。デモは表現の自由があっても、政府は差別的発言を許さない立場に立ったといえます。(編集部)

《アムネスティ》下関通信 (2016/7)



一般に組織とは、良い目的達成のため構成された集団のことですが、組織悪という言葉はあっても組織善という言葉は耳にしません。今年3月のアムネ全国総会も12議案が上程されましたが、審議未了議案が多く、5月に再度続行総会が持たれました。公益法人のこんな複雑な事態には下関から出席の総会議員2名も一驚しました。

翌6月には徳島で中四国交流会が持たれ(昨年は於下関)、熱さめやらぬ総会感想も再熱する中、「原点に返ろう」との明るい意見が座を引き締めました。アムネのみならず良い社会作りをめざす組織では、熱心のあまり議論が膠着状態に陥るとき、その組織の理念の原点に立ち返ることはとても大切だと思います。

アムネスティは1960年一弁護士(英)が、軍事下にあったポルトガル

の2青年が「自由のために」と乾杯した理由で逮捕され、獄中に忘れ去られている状況に衝撃を受け、「政府と異なる意見によって自由を奪われる事態の改善には、世界規模の市民運動を起こす必要がある」と提唱したことに始まっています。今や700万人会員(日本支部は1970年発足、現在8000人会員)と発表されています。

思えば徳島交流会での講演二つも、1950年の難民条約締結は、大戦中ドイツとソ連に最も長期間主権を奪われていたポーランドからの視点が欠かせないこと(元国連難民高等弁務官事務所職員森啓光氏)、アーリントン墓地合祀問題は独立戦争(1860年代)時の南軍兵士合祀問題に起因、今やアメリカの歴史認識は「ヒストリーウォー」と呼ばれていること(神戸大学名誉教授横山良氏)等、いかに正しく歴史上の事実を確認してゆくか、原点回帰の重要性を、改めて学んだ大変貴重な体験でした。 (2016.6.25 アムネ下関、山県)





燃料について

原子力発電において、加圧水型軽水炉（PWR）の場合も沸騰水型炉（BWR）の場合にも、ウランやプルトニウムの燃料は、1cm位のペレットというものに入れて固めたものを、長さ4mほどの長い鞘（燃料被覆管）の中に400個ほど収めて燃料棒とし、数100本位束ねて炉心に入れたものであります。

『ペレット』というのは、ジルコニウム（Zirkonium ドイツ）という金属元素の一種で、元素記号 Zr 原子番号 40 原子量 91.22 というものであります。これはジルコン鉱として産出されており銀白色の硬い金属であります。無定形のものは黒色粉末で、原子炉材料として用いられており、なかでも酸化ジルコニウム(IV) ZrO_2 はジルコニアと呼ばれ、耐熱材料として用いられているのです。つまり、このジルコニウムという金属でできた1cmの小さな瀬戸物のような入れ物の中にウランやプルトニウムを詰め込んだものがペレットというものであります。

そのペレット400個のものを長い棒状にしたものを作り、それを『燃料棒』といいます。

なお、ペレットは外形を「1000分の1mm」単位に規定されていて、それを『被覆管』といいう被う鞘のようなものの中に入れられているのです。しかし、この被覆管とペレットの間には、「約0.2mm」の隙間をつくることとされています。

この規定には理由があります。それは運転の初期には、燃料ペレットは「焼きしまり」と呼ばれる現象によっていったん体積が減少し、ペレットと被覆管との間が広がるのであります。それが運転が進むにつれて、被覆管は外側から約70気圧の圧力で押されて縮み、燃料ペレットは内部に核分裂が生じて気体や α 線によるヘリウムなどがたまって膨張し、途中で隙間がなくなり、さらにこの膨張に押されて被覆管も一緒に膨張していくためであります。

しかし、この場合に対応するためには、ペレットの外形が大きすぎても、小さすぎてもいけないとされています。

ペレットの外形が大きいと、早く被覆管とペレットの隙間がなくなり、被覆管に歪みを生じさせて小穴（ピンホール）や亀裂をつくり、燃料が「損傷燃料」となるのであります。「損傷燃料」は、原発に異常が発生すると「たやすく」壊れるし、異常時には多数の被覆管が同時に破壊されて、内部の核分裂生成物が冷却水の中に漏れでたり、逆に内部に冷却水が入って

「浸水燃料」となり、水蒸気爆発を起こす危険があるのです。

その一方、ペレットの外形が小さいと、隙間の埋まるのが遅れて熱がペレット内にこもり、制御棒飛び出し事故などが発生した場合には、燃料ペレットが粉々に破裂して、被覆管を破って冷却水の中に飛び出す危険があるのであります。PCHI 破壊問題・燃料ペレットと被覆管の機械的相互作用による破損です。さらに、外形の大きい部分ではペレットが被覆管を圧迫し、外形の小さいところでは隙間ができるで伝達が悪くなり、ペレットに熱がこもって破裂する危険があるのです。そのためにペレットの外形をそろえておく必要があるのです。したがって、製造時においてペレット外形を決められた値に揃えること、それを厳格に測定・検査することが安全上非常に重要なあります。

通産省（当時）が電気事業審議会に設けたBNFL検討委員会が2000年6月22日にまとめた報告書によると、「燃料検査の容易性の観点からウラン燃料とMOX燃料との間には大きな差がある。MOX燃料に関しては、従業員の被爆・保健管理・臨界管理・計算管理及び核物質防護の観点で、ウラン燃料とは比較にならない厳重な管理が求められている。」としています。MOX燃料は、ウラン燃料と比べて多くの放射線を出し、プルトニウムが放射能の毒性を高める性質をもっております。さらに、これは核分裂しやすい物質でありますから、臨界に至らないように厳重に管理する必要があるのです。そのため、製造・検査の行程全体を周辺環境から隔離しておこなうようにすべきであり、従業員の被爆を低減していくようにしなければならないし、検査はグローブボックス内で、少量ずつ行なう必要があるのです。

元ロンドン大学教授フランク・バーナビーの1999年9月の研究報告書によりますと、「MOX燃料はプルトニウムとウランの物質性の品質管理が非常に難しく、炉心の中性子物理（中性子の挙動の状態）や被覆管損傷に与える影響は深刻」であるとしているのです。そして、このバーナビーの報告は、酸化プルトニウムという異質なものを完全に混合することは技術的に不可能で、「MOX燃料ペレットの中にプルトニウムの塊」であるプルトニウムスポットが生じることが避けられない」と指摘しており、さらに、「東京電力にペレットを供給する『ベルゴン社』（ベルギーの核燃料製造会社）は、製造能力・品質管理能力ともBNFL社（イギリスの再処理・核燃料製造などを行なう会社）よりも劣る」とも述べているのであります。

原子炉の中で核分裂反応が起きると、ウランやプルトニウムが燃料ペレットに溜まっていくのでありま

す。しかし、プルトニウムもウランも共に「揮発性」のものではないから、ペレットが溶けない限りほとんど外に出ることはできません。

では、どのようになったらこのペレットは溶けるのでありますか。それについて、これまでの研究の結果では、炉心が「2800℃」位の高温に達すると燃料ペレットは溶解するとされております。つまり、「燃料ペレット」は「2800℃」位になると溶けるということなのです。福島原発の事故に関して、日本政府は2011年5月12日に1号機で「メルトダウン」が起きたと発表しました。そして、「燃料棒の約55%が損傷した」と述べたのであります。そしてさらに、「燃料が下に溶け落ちている」という発表をしました。『メルトダウン』(melt down) ということは、原子炉の炉心溶解現象のことです。つまり、プルトニウムやウランの燃料ペレットが溶けたことなのであります。本来、原子炉は非常時が起きた場合には、炉心に「制御棒」を差し込んで核分裂を止めることになっております。(『制御棒の問題点』については、後日に考えたいと計画しております。)しかし、仮に「制御棒」を差し込んだとしても、原子炉は安全な状態とはなりません。制御棒を差し込んで、安全な状態にならないというのが原発の特質なのです。

原子炉の炉内で発生している「エネルギー」には

2種類あります。その1つは、核分裂そのもののエネルギーであり、他の1つが「崩壊熱」と呼ばれているエネルギーであります。『崩壊熱』というのは、核燃料が核分裂によって生み出した放射性物質の出すエネルギーで、原発を長時間動かした場合に、その原子炉内で発生するエネルギーの約7%にあたる熱のことをいいます。原発の場合には、事故が起きて、制御棒を挿入されて、核分裂そのものを止められたとしても、この7%のエネルギーは止めることが不可能なのです。したがって、そこに放射性物質が存在する限り、止める事のできない「崩壊熱」を冷やし続けなければならぬのであります。冷やし続ける限り、燃料が溶けてしまうのです。

ウラン・プルトニウムを覆っている「燃料ペレット」の「ジルコニア」が破損し、溶解して、ペレットが落下して圧力容器内に溜まっている水と接触すると、水は急激に熱せられて一瞬のうちに沸騰し、水蒸気爆発を引き起こす危険が発生します。仮に水蒸気爆発が起こることになると、厚さ16cmの鋼鉄でできている「圧力容器」、その外側にある格納容器は吹き飛んでしまうことになるおそれがあります。溶けた燃料ウラン・プルトニウムは2800℃になっているのであります。鋼鉄でできている「圧力容器」とその外側にある格納容器は1400~1500℃で溶けてしまうといわれています。(続く)

ツイッター

パソコンにはついていけない(K 60代)

「佐賀で17才の少年が、県立高校の情報システムに侵入し、情報を流出…」。このニュースを聞いたとき、私はてっきり学校に無断で侵入し、教室のパソコンを開いてその中の情報をCDにコピーした事件と思っていました。「不正アクセス」とのことですがこれを聞いても未だに理解できません。だいたいパソコンがウイルスに感染される意味もわからず、「薬を飲んだら治るんじゃなあ~い」程度です。そういえば、パソコンが流行りだした頃、「環境設定は?」と質問されたら「えっと、4畳半の部屋で…」と答えた人がいたみたいですが、同人類です。

大学先生ありがとう(S)

連載中の“原子力発電のこと”を勉強しています。ゆっくり読んでいけば、なるほどと理解できます。大学先生の丁寧な説明に感謝しています。

So! Big(沖縄 中)



ぼくは、母乳
一筋の人生

5ヶ月目となったY君。ある日の買物中、Y君と同じくらいのベビーを抱えたアメリカ婦人が、Y君の月齢を聞いて「ソー、ビッグ!」。検診のとき、お医者さんが「重量級やね」。そうなんです。8.6kgあるので重いです。肩凝り、腰痛が…。

分かち合いのひととき

6月26日 16名参加

虹の会

次回2016年7月24日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

♪…生きてゆくその意味は少しだけ分かったかもしない。…♪

「風は止んだ」(作詞・作曲・編曲 小田和正)の歌を聴いて分かち合いました。

「今までの人生を振り返って思う神様との出会い。」「友との別離。」「生きていく事とは…。」「愛を教え

てくれる家族。」「夫婦のきずな。」などが分かち合われ、豊かなひと時を過ごすことが出来ました。

歴史問題にみる日中関係

『慰安婦』に太陽を

(7)



作家・ドキュメンタリー映画監督

班 忠義さん

※文責／編集部

もうひとつ、山西省では1942年になると光があつたんですね。毛沢東は、もう日本が負けると(予測した)。蒋介石の部隊は南にいるので、自分は人民大衆を発動して自分の権力基盤ができるような打算がありましたね。1942年の9月、延安の政府運動は共産党にとってとても重要な時期でした。あの時、毛沢東は完全な権力は持つていませんでした。毛沢東は延安に閉じこもつて、いわゆる農村で改革とか土地建設をする。都会では周恩来とか王明が広い地域で連帯をやるんですね。実は周恩来のほうが人望が高いのです。それでその人に絶対権力をやって、政府運動をやりました。政府運動では2つのスローガンがありました。一、経験主義を打倒。二、教条主義を打倒。主觀主義はダメだと。

観主義とは王明のようなソ連の指示を受けていただけのやりかた。経験主義は周恩来のようななすつと昔から共産党の上にいる経験だけ。だから最後に正しいのは「毛沢東主義」で、劉少奇が2番になり周恩来たちはみな除名されました。それで毛沢東の地位ができ、そのとき八路軍の勢力も成長して、日本軍のほうは弱まつていった。そういった中で女性の被害が広まつたんですね。

ただ1952年の反革命鎮圧、1962年の中国大飢饉で劉少奇と鄧小平は3000人の餓死者を出したので、毛沢東が「お前が責任を取れ」という会議を行い毛沢東と劉少奇が決裂。その後文化大革命をやつて、1971年に劉少奇もまた打倒され、林彪

も死んでしまい、毛沢東には敵がなくなり、ソ連とアメリカのバランスの関係で経済政策から日中国交回復が。そのような歴史がありますよ。賠償もせず、一切の請求もしなかった。それが日中にきょうのよう暗い影を残したことです。

きょう、下関でこちら側を見て、また向こう側も見て、日中の歴史は、このように間違つたことだらけですが、これからの中の歴史は、私たち国民が国民(同士)の連帯をしなければならない。中國・日本という(国家)単位を超えないければならない。そういうことでこの「慰安婦」問題、戦争問題は私たちが憶えて次の世代に伝えること。どのように市民同士が連帯しあえるかを、共に考えていきましょう。ありがとうございました。(おわり)

班忠義監督 淫身のドキュメンタリー映画

(中国での日本軍「慰安婦」の被害女性の叫び)

太陽がほしい を上映します

とき/10月15日(土) PM 1:30~

ところ/カトリック細江教会

下関市細江町1-9-15(JR下関駅より徒歩12分)

参加費:一般1,000円・学生500円

彼女達を初めて訪ねたとき、日本から来た中国人だよと聞いただけで、彼女たちは目をみはり、手はふるえ、避ける身構えを見せた。…その翌年から、彼女たちのところに足を運び、一緒に暮らしたりし、彼女たちは、少しずつ少女時代の戦争体験の話をしてくれた。しかし、その話は恐怖の情景と瞬間であり、トラウマのフラッシュバックの記憶だった。そこから18年の歳月を費やし、やっと彼女たちが語った歴史の全容がわかったような気がする。彼女たちの語って下さった証言は、托された。日本と中国、そして世界の人々に共有してほしいと、この映画を作る決意をした。班忠義

編 集 後 記

麻生副総理の暴言(1面)もですが、安倍首相の街頭演説はこれまたヒドイ。「野党はまとまった政策がなく、批判ばかり」と低レベルな共産党と野党共闘批判を繰り返しています。それほど市民と野党共闘に脅威を感じているのでしょうか。「戦争法廃止」を望む声に対し安倍首相は「日米の絆が損なわれる」と言っていますが、そうではなく「米国の行う戦争への参戦の危険がなくなる」道です。(瀬下)